



## 株式会社 AFC-HD アムスライフサイエンス

2022 年 8 月期決算説明会

2022 年 10 月 25 日

## イベント概要

---

|          |                                                                   |       |         |
|----------|-------------------------------------------------------------------|-------|---------|
| [企業名]    | 株式会社 AFC-HD アムスライフサイエンス                                           |       |         |
| [企業 ID]  | 2927                                                              |       |         |
| [イベント言語] | JPN                                                               |       |         |
| [イベント種類] | 決算説明会                                                             |       |         |
| [イベント名]  | 2022 年 8 月期決算説明会                                                  |       |         |
| [決算期]    | 2022 年度 通期                                                        |       |         |
| [日程]     | 2022 年 10 月 25 日                                                  |       |         |
| [ページ数]   | 24                                                                |       |         |
| [時間]     | 15:30 – 16:05<br>(合計：35 分、登壇：32 分、質疑応答：3 分)                       |       |         |
| [開催場所]   | 103-0026 東京都中央区日本橋兜町 3-3 兜町平和ビル 2 階<br>第 2 セミナールーム（日本証券アナリスト協会主催） |       |         |
| [会場面積]   | 145 m <sup>2</sup>                                                |       |         |
| [出席人数]   | 13 名                                                              |       |         |
| [登壇者]    | 3 名                                                               |       |         |
|          | 代表取締役会長                                                           | 浅山 雄彦 | (以下、浅山) |
|          | 取締役会長室長                                                           | 南方 茂穂 | (以下、南方) |

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



株式会社さいか屋 代表取締役社長 山野井 輝夫（以下、山野井）

---

## サポート

|         |               |         |                         |
|---------|---------------|---------|-------------------------|
| 日本      | 050-5212-7790 | 米国      | 1-800-674-8375          |
| フリーダイヤル | 0120-966-744  | メールアドレス | support@scriptsasia.com |



## 登壇

---

**司会**：それでは、定刻となりましたので、ただ今から、株式会社 AFC-HD アムスライフサイエンス様の 2022 年 8 月期決算説明会を開催いたします。

最初に、同社からお迎えしております 3 名様をご紹介します。

代表取締役会長、浅山雄彦様。

**浅山**：浅山でございます。よろしくお願いいたします。

**司会**：取締役会長室長、南方茂穂様。

**南方**：よろしくお願いいたします。

**司会**：株式会社さいか屋、代表取締役社長、山野井輝夫様。

**山野井**：山野井でございます。よろしくお願いいたします。

**司会**：本日は、ただ今ご紹介申し上げました浅山様、山野井様のお二方からご説明をいただきます。

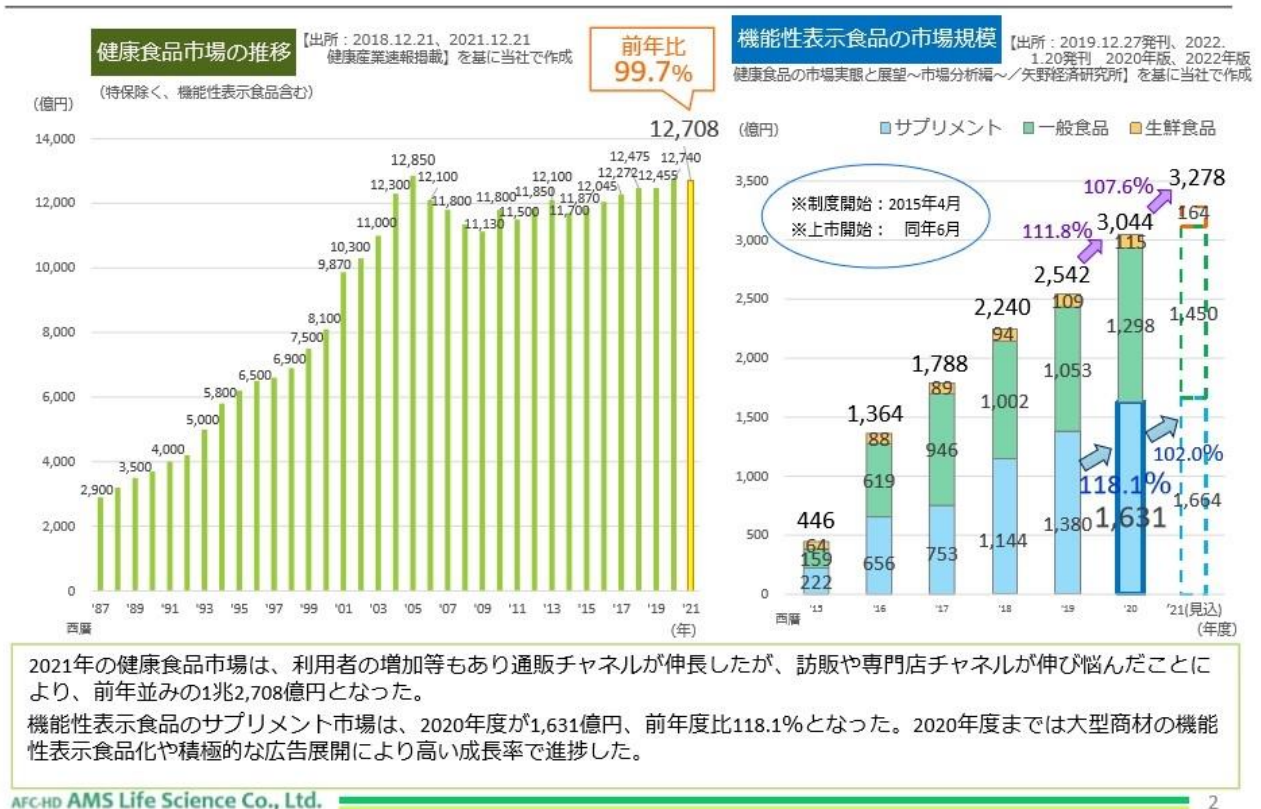
それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

---

## サポート

|         |               |         |                         |
|---------|---------------|---------|-------------------------|
| 日本      | 050-5212-7790 | 米国      | 1-800-674-8375          |
| フリーダイヤル | 0120-966-744  | メールアドレス | support@scriptsasia.com |

# 健康食品業界の動向



浅山：皆様、お忙しいところを、本日は当社 AFC-HD アムスライフサイエンスの決算発表にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、早速、ご説明に入らせていただきたいと思います。

まず、業界の動向からまいります。

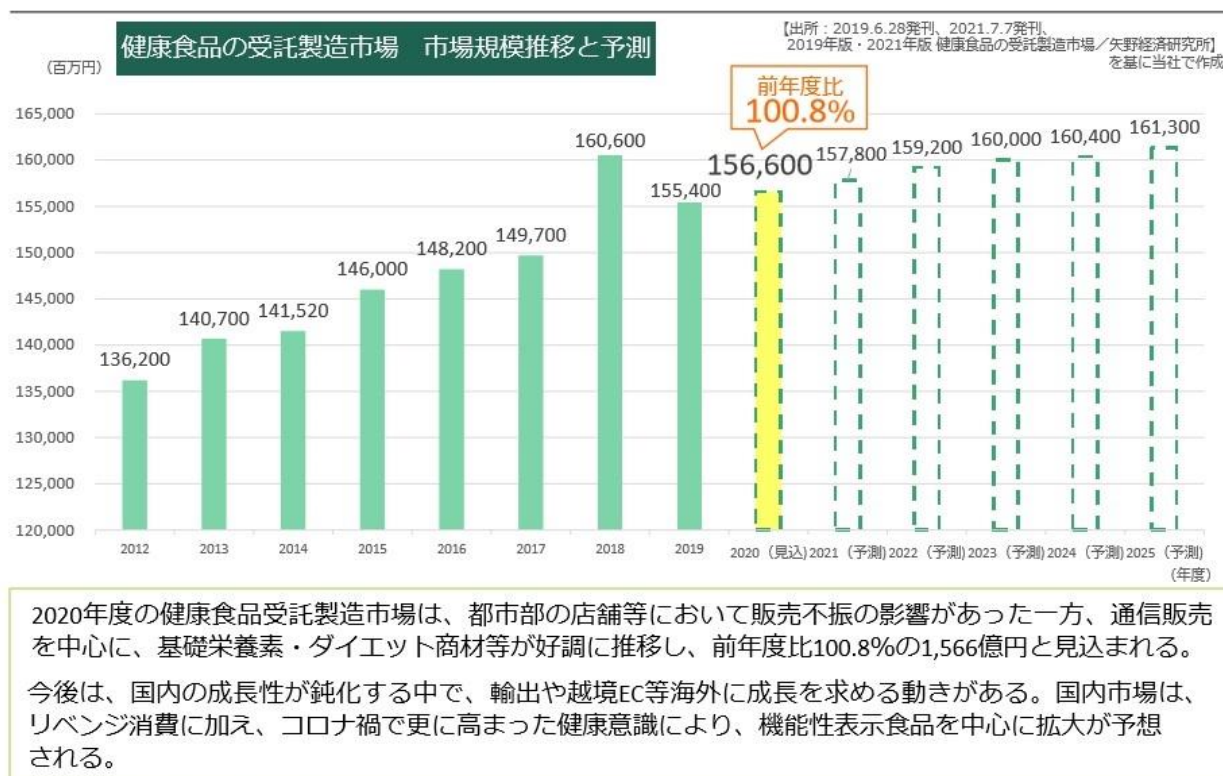
健康食品の市場の推移です。2005 年を、相当前の話になりますけれども、ピークといたしまして、浮き沈みがある中、ほぼ感覚的には横ばいの業界かと思います。逆にこのコロナ禍の中、不況の業界もある中ではいたって堅調な推移をしているかと思います。約 1 兆 2,000 億円の市場でございます。

そんな中、やはり昨今機能性表示食品が市場でお客様にご好評いただいているケースもありまして、業界の中でも一般的な健康食品から中身が一部、効能効果が謳える機能性表示食品に移行し始めている状況でございます。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

# 健康食品 受託製造市場 の動向



AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd.

3

われわれは、健康食品の受託、お客様のご商品を製造させていただいているような事業が本業になるわけですが、こちらでも2018年がピークでございました。この年には、大手ドラッグストア様のダイエット商品、腸内環境を改善してダイエットに結びつけるとか、そういう乳酸菌関係のダイエット商材が非常に世の中でブームになったことがあった年でした。

それから、ダイエット商材は大体はやりがございまして、そんな中コロナを迎えたこともありまして、少し鈍化しているケースもあるのですが、逆にコロナ前は海外、特に東南アジアのお客様にメイドインジャパンを標榜する食品、また健康食品が、化粧品もそうですけれども、非常に好評をいただいて売上を伸ばしていた、上げていたケースでございました。それがコロナで影響を昨年1年すごく受けた年ではございました。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



# 健康食品 受託製造市場の動向

## 健康食品受託製造企業のOEM売上高推移

【出所：2019.6.28発刊、2021.7.7発刊、  
2019年版・2021年版 健康食品の受託製造市場／矢野経済研究所】を基に当社で作成  
(矢野経済研究所推定) (売上高：百万円)

|    |     | 2017年度  |        | 2018年度  |        | 2019年度  |        | 2020年度（見込） |        |
|----|-----|---------|--------|---------|--------|---------|--------|------------|--------|
|    |     | 売上高     | シェア    | 売上高     | シェア    | 売上高     | シェア    | 売上高        | シェア    |
| 1  | A社  | 22,971  | 15.3%  | 26,869  | 16.7%  | 25,782  | 16.6%  | 25,900     | 16.4%  |
| 2  | B社  | 17,200  | 11.5%  | 18,080  | 11.3%  | 16,940  | 10.9%  | 18,380     | 11.6%  |
| 3  | C社  | 12,920  | 8.6%   | 15,200  | 9.5%   | 16,070  | 10.3%  | 17,650     | 11.2%  |
| 4  | D社  | 10,140  | 6.8%   | 10,600  | 6.6%   | 11,000  | 7.1%   | 12,000     | 7.6%   |
| 5  | E社  | 9,900   | 6.6%   | 10,000  | 6.2%   | 9,090   | 5.8%   | 9,720      | 6.1%   |
| 6  | 当社  | 8,509   | 5.7%   | 9,389   | 5.8%   | 9,591   | 6.2%   | 8,771      | 5.5%   |
| 7  | F社  | 4,600   | 3.1%   | 5,100   | 3.2%   | 4,800   | 3.1%   | 5,600      | 3.5%   |
| 8  | G社  | 7,940   | 5.3%   | 7,120   | 4.4%   | 5,600   | 3.6%   | 5,300      | 3.4%   |
| 9  | H社  | 3,670   | 2.5%   | 5,058   | 3.1%   | 5,195   | 3.3%   | 4,746      | 3.0%   |
| 10 | I社  | 4,680   | 3.1%   | 4,900   | 3.1%   | 5,000   | 3.2%   | 4,650      | 2.9%   |
|    | その他 | 47,170  | 31.5%  | 48,284  | 30.1%  | 46,332  | 29.8%  | 45,433     | 28.7%  |
|    | 合計  | 149,700 | 100.0% | 160,600 | 100.0% | 155,400 | 100.0% | 158,150    | 100.0% |

※2021年度健康食品の受託製造市場規模予測は157,800百万円。同年度の当社OEM部門の売上高は8,561百万円。推定シェア5.4%予測  
※2022年度健康食品の受託製造市場規模予測は159,200百万円。同年度の当社OEM部門の売上高は8,940百万円。推定シェア5.6%予測

健康食品受託製造市場では淘汰の動きが続いており、市場の7割以上のシェアを業界トップ10の企業が占める状況となっている。この淘汰の動きは、委託先からの安全性、品質管理体制の要求が高度化していることから、今後も続くものと考えられる。当社のOEM部門は市場の5%台のシェアを確保し、業界6位の地位を維持しております。

AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd.

4

受託製造市場のシェアで申しますと、トップ、これは岐阜のアピさんという会社です。売上が約230億円の会社でございます。ここを筆頭に、当社は直近ですと87億円ですかね、前年5位で、ちょっとここが入れ替わっておりますけれども、内容的にはさほど変わっていないと思われます。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com





## 連結 決算の状況

### 連結 業績比較表 (直近3期間)

(単位：百万円)

| 連結                                                                                          | 2020年8月期<br>実績 | 2021年8月期<br>実績 | 2022年8月期<br>実績 | 前期比率                                                                                                                |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|----------------|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 売上高                                                                                         | 15,819         | 22,368         | 22,997         | ※<br>今期より、新収益認識基準を適用しております。<br>売上高及び利益面において影響が生じるため、対前期比率は記載しておりません。<br>なお、従来の会計基準の場合の売上高は、32,613百万円（対前期比145.8%）です。 |
| 営業利益                                                                                        | 1,093          | 2,245          | 1,011          |                                                                                                                     |
| 経常利益                                                                                        | 1,099          | 2,161          | 1,343          |                                                                                                                     |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益                                                                         | 676            | 1,495          | 735            |                                                                                                                     |
| 経常利益率                                                                                       | 7.0%           | 9.7%           | 5.8%           |                                                                                                                     |
| 増収要因：連結子会社が増加したことに加え、医薬品事業の売上高が前年同期を上回った。                                                   |                |                |                |                                                                                                                     |
| 減益要因：新たに加わった連結子会社が、新型コロナウイルス感染症による影響を受けた。営業外収益として、まん延防止等重点措置に関わる営業時間の短縮要請協力金及び雇用調整助成金等があった。 |                |                |                |                                                                                                                     |

AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd.

6

ここから数字の発表をさせていただきたいと思います。

売上高 229 億 9,700 万円、営業利益 10 億 1,100 万円、経常利益 13 億 4,000 万円、親会社株主に帰属する当期純利益は 7 億 3,500 万円、経常利益率は 5.8%でございました。

今期より株式会社さいか屋が、百貨店ですけれども、新収益認識基準を適用しておりまして、これはもともとの会計基準で申しますと売上が 326 億円になったということでございます。会計基準が変わったことによって、229 億円で終わっております。

増収の要因といたしましては、連結子会社が増加したことに加えまして、医薬品事業、本草製薬の売上が前年同期を上回ったことによるものでございます。

減益ですけれども、新たに加わりました連結子会社、これはさいか屋と、静岡を中心に飲食店をやっておりますなすびです。そちらがグループ化したことによって飲食店なんかは特にコロナの影響をもろに受けまして、営業収益として営業時間が短縮したことによって、雇用調整助成金等によりまして、利益は変動が非常にあったということでございます。

#### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



## 連結 資産の状況

※借入・社債・割賦未払金

(単位：百万円)

| 連結            | 2021年8月期 | 2022年8月期 | 対前期増減額  |
|---------------|----------|----------|---------|
| 資産合計          | 35,752   | 37,348   | 1,596   |
| 内訳 流動資産       | 15,852   | 17,125   | 1,272   |
| 固定資産          | 19,900   | 20,223   | 323     |
| 負債合計          | 23,091   | 24,903   | 1,812   |
| 内訳 流動負債       | 11,802   | 13,218   | 1,416   |
| (上記のうち有利子負債※) | (5,039)  | (7,048)  | (2,009) |
| 固定負債          | 11,289   | 11,684   | 395     |
| (上記のうち有利子負債※) | (9,780)  | (10,175) | (395)   |
| 純資産           | 12,660   | 12,445   | △215    |

資産：無形固定資産が195百万円、流動資産のその他が137百万円、商品及び製品が108百万円減少した反面、現金及び預金が1,155百万円、投資その他の資産が608百万円、受取手形及び売掛金が333百万円増加した。

負債：1年以内返済予定の長期借入金844百万円、流動負債のその他が589百万円、未払法人税等が471百万円減少した反面、短期借入金が2,853百万円、支払手形及び買掛金が447百万円、長期借入金が444百万円増加した。

純資産：親会社株主に帰属する当期純利益の計上により利益剰余金が459百万円増加した反面、当社連結子会社の㈱さいか屋が発行したA種優先株式の全部を㈱横浜銀行から取得したことにより、非支配株主持分が737百万円減少した。

AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd.

7

続きまして、連結、資産の状況でございます。

資産の合計は 373 億円です。内訳といたしまして、流動資産が 171 億円、固定資産が 202 億円です。負債の合計ですが、249 億円です。内訳といたしまして、流動負債が 132 億円、固定負債が 116 億円、純資産が 124 億円でございます。

無形固定資産が 1 億 9,500 万円、流動資産その他が 1 億 3,700 万円、商品及び製品が約 1 億円減少した反面、現金及び預金が 11 億 5,500 万円、投資その他の資産が 6 億円、受取手形及び売掛金が 3 億 3,300 万円増加しております。

負債につきましては、1 年以内返済予定の長期借入金 8 億 4,400 万円、流動負債その他が 5 億 8,900 万円、未払法人税等が 4 億 7,100 万円減少した反面、短期借入金が 28 億 5,300 万円、支払手形及び買掛金が 4 億 4,700 万円、長期借入金が 4 億 4,400 万円増加しております。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



## 単体 決算の状況

### 単体 業績比較表（直近3期間）

（単位：百万円）

| 単体                                                          | 2020年8月期<br>実績 | 2021年8月期<br>実績 | 2022年8月期<br>実績 | 前期比率                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------|----------------|----------------|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 売上高                                                         | 13,095         | 14,370         | 11,599         | ※<br>今期より、新収益認識<br>基準を適用しております。<br>売上高及び利益面にお<br>いて影響が生じるため、<br>対前期比率は記載して<br>おりません。 |
| 営業利益                                                        | 869            | 1,080          | 905            |                                                                                      |
| 経常利益                                                        | 850            | 1,165          | 1,045          |                                                                                      |
| 当期純利益                                                       | 548            | 867            | 724            |                                                                                      |
| 経常利益率                                                       | 6.5%           | 8.1%           | 9.0%           |                                                                                      |
| 減収要因：当社経由していた関係会社の仕入商品、原料資材の調達を関係会社直接取引に変更したことにより、売上減少となった。 |                |                |                |                                                                                      |
| 減益要因：売上の減少に伴い、各利益が減益となった。                                   |                |                |                |                                                                                      |

AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd.

8

続きまして、単体です。

売上が115億9,900万円、営業利益が約9億円、経常利益は約10億円、当期純利益が7億2,400万円、経常利益率は9%でございました。

減収の要因は、これは単体ですけれども、当社アムスライフサイエンス、本社を経由した関係会社、主にAFCですけれども、の仕入れ商品、原材料資材を関係会社AFCに直接変更したことによって、単体は売上が減少しております。

減益は売上の減少に伴い、これは主に海外のお客様の売上がその前の年度が非常に多かったものから、そちらがコロナの影響で減ったことによって減益となっております。

#### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com





当社、グループ会社でもともとあるのですが、新たに昨年度、こちらの右二つの会社、5月には、さいか屋、6月からは、なすび、これは和食を中心とした飲食店でございます。この2社が外からグループ内に参加していただいたことがございました。

あとは新設といたしまして、AFC建設、また同じくAFC不動産の2社を追加してございます。こちらはここもと、静岡もそうですけれども、非常に有効な土地等が出てきていると。工場建設だったり飲食店の立地に合ったようなところをグループ内でアンテナを張っていこうと、こういう不動産と建設会社を新設しております。

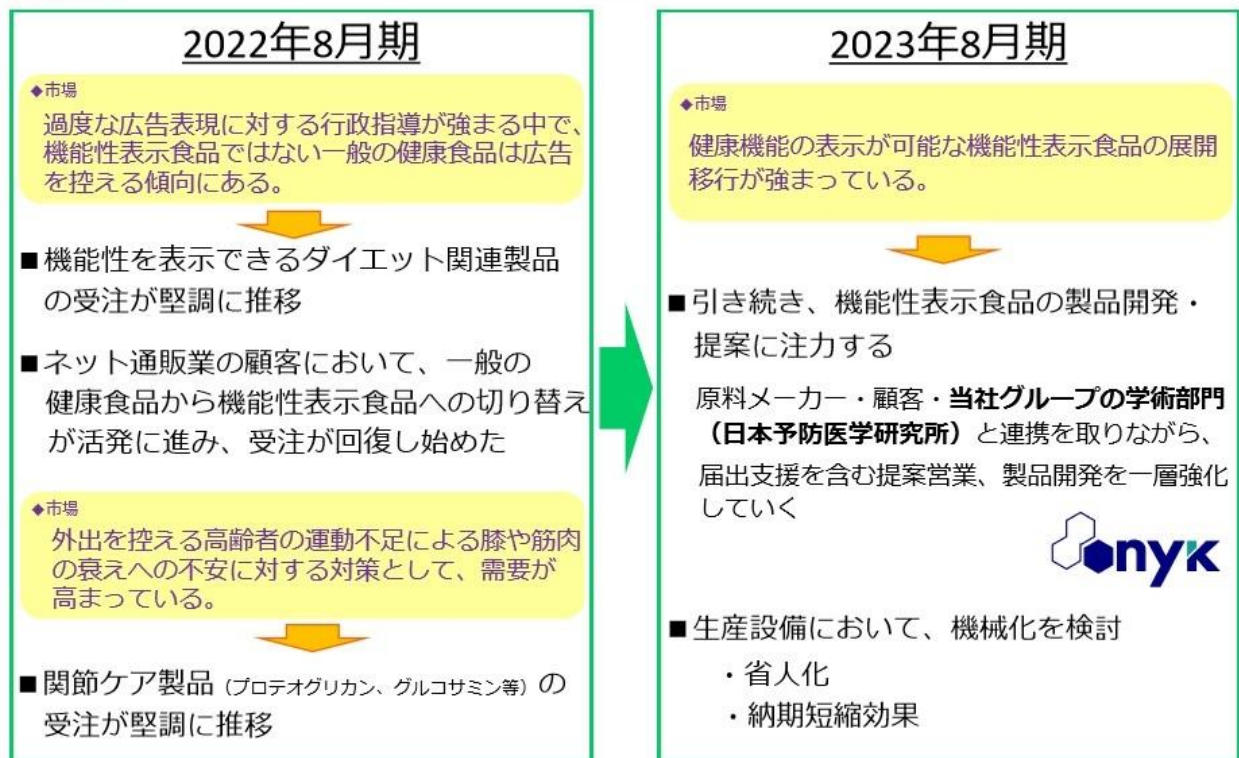
また、AFC国際学院、これは今後グローバル化していくであろう、優秀な海外からの人材を将来当社グループに入社していただくという思惑がありまして、こういう学校も運営していこうということで、8月に文科省の面談を受けました。早ければこの11月に認可が下りれば、こちらのAFC国際学院も開校、来年の4月より新入学生を募集できる手はずとなっております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



## OEM部門 AFC-HDアムスライフサイエンス



AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd.

11

ここからは、事業の報告と今後の取り組みに入らせていただきます。

まず、OEM 部門です。

本業ですけれども、先ほどもちょっと触れた機能性表示食品がシェアを上げていることをお話しさせていただきました。これは原因がありまして、一番上にございますように、過度な広告表現に対する監督官庁の行政指導、非常に強まってきていると。例えば一番極端な話ですと、こちらのサプリをとると、がんが治るとか、そういう文言を打って販売に至ると薬事法で検挙される会社なんかもたまにございます。

それは極端な例ですけれども、特にダイエットとかそういった訴求の商材について、監視が非常に厳しくなっている中で、機能性を表示できる一部エビデンス等が整っている商材については、そういうエビデンスについてご説明して商品を販売してもいいルールができまして、こちらのほうが販売者も一般のユーザーの消費者の方たちも非常に分かりやすいということで、こちらの商材が動いております。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com





主に素材としては、ダイエット系ですと、ブラックジンジャーとかアフリカマンゴノキ、アップルフェノン、これはポリフェノールの商材ですけれども、こういったものが昨期は非常に動きがあったということでございます。

また、ネット通販のお客様ですけれども、一般の健康食品から機能性表示食品への切り替えが活発に進みまして、受注が一時より回復が見られておると思います。

今後もこの機能性表示については、当社グループ会社でございます日本予防医学研究所が中心になって、今、消費者庁に届出を出すのですけれども、そういう研究部門がないお客様もありますので、当社グループがそれを代行するケースも非常に増えているということでございます。

その辺もトータル的に当社の特徴として、窓口がアムスで、そういった付加価値の付いたサービスも含めまして、業界の中でも非常にご好評を得ていると思っております。



製造 学術 AFC-HDアムスライフサイエンス  
日本予防医学研究所



国吉田工場（静岡市駿河区）



NAHA ハラル認証マーク



千葉工場  
（千葉県長生郡長南町）

- 認証団体：NAHA（Nippon Asia Halal Association）
- 2022年2月、国吉田工場で製造するイスラム圏向け2製品のハラル認証の取得を確定  
（製造設備の一部をハラル対応とし稼働）
- 2022年8月に、ハラル認証取得の製品を海外顧客に出荷した

- 認証団体：NAHA以外を予定  
（取得の難易度が高い）
- 取引先より認証取得の依頼を受ける
- 2022年7～10月：千葉工場の改修工事
- 2024年目標：千葉工場で製造するイスラム圏向け製品のハラル認証取得を目指す

国際部(AFC)のハラル圏売上拡大のため、研究開発部門(NYK)と製造部門(AMS)がバックアップする

AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd.

12

今後、販路の拡大という意味で、イスラム圏のお客様に向けた商材、皆様もお聞きになったことがあるかと思いますが、ハラル認証がございまして、こちらは日本のNAHAといいまして、日本アジアハラルアソシエーションという団体がございまして、そちらの認証を2商品取得しまして、

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



これは現存の機材、設備でソフトも含めて認証を受けまして、こちらが8月に1度、最初の商材が出荷したということでございます。

また、今後ですけれども、日本のハラルでは各国、例えばインドネシア、マレーシア、他国イスラム圏の国々が独自で認証団体を持っておるケースがあります。そういうことに対応するために、日本の認証団体よりも非常に取得の難易度が高いのですけれども、こちらでもチャレンジしていこうということです。

新しく当社の千葉工場を改修、リニューアルを今している最中ですが、こちらが終わりますと積極的に現地のハラル認証を取得するべく、今インフラも整えてございます。認証等ができることとなりますと、今後当社 AFC の国際部のお客様が売上を上げやすくなるということで、非常に期待しております。

## AFC 自社製品販売部門 エーエフシー

| 2022年8月期                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 2023年8月期                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>【通信販売】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>■越境ECでの受注が増加<ul style="list-style-type: none"><li>・中国 独身の日(11月11日)におけるセールイベントの実施</li></ul></li></ul>   <b>【海外販売】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>■既存顧客における美容商材の受注が好調</li></ul> <b>【店舗販売】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>■活動制限の緩和を受け、来客数増加及び催事・相談会等の実施数増加により増収</li></ul> | <b>【通信販売】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>■越境ECの販売を強化していく<ul style="list-style-type: none"><li>・販促物の協賛やライブコマースを強化</li></ul></li></ul> <b>【海外販売】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>■既存顧客への拡販<ul style="list-style-type: none"><li>・円安メリットを活かす</li></ul></li></ul> <b>【店舗販売】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>■自社製品販売シェアの拡大<ul style="list-style-type: none"><li>・キャンペーン目標の確実な達成</li><li>・セミナー、測定会で体験型イベントを強化</li></ul></li><li>■販売力のアップ（人材の育成）<ul style="list-style-type: none"><li>・勉強会による商品知識の増強と、コンサルティング販売の基本を習得</li></ul></li></ul> |

AFC HD AMS Life Science Co., Ltd.

13

当社は、自社商品、自社ブランドを持っています。こちらはエーエフシーというブランドで健康食品と化粧品を販売させていただいております。こちらも越境 EC での、これは中国で

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



すが、非常に受注が増加しています。販売しているチャネルとしては、TMALL とかジンドンでございます。

今後はコロナも、各国によって違うのですが、活動制限が緩和に向かっておりますので、それを追い風に一昨年の売上を超えようと、今、準備に入っております。

また、海外、今、円安が非常にニュースでも取り上げられておりますけれども、逆にこれは国内製造でございますので、われわれは。円安メリットを生かして、海外のお客様に販売の促進を行っていくことでも、こちらも逆に円安を追い風にして、販売の機会を増やしていこうという心積もりでおります。

本草製薬

医薬品事業 本草製薬

### ■ジェネリック医薬品の好調

- ・ピムロ顆粒（下剤）
- ・シルデナフィル錠（生活習慣改善薬）
- ・フィナステリド錠（AGA治療薬）
- ・タダラフィル錠（生活習慣改善薬）



販売を強化してきた利益率の高いジェネリック医薬品の売上比率が高くなり、粗利益率が改善

### ■漢方薬のOEM受注が好調

- ・投資した医薬品の生産設備を活用
- ・稼働率が上がったことにより、粗利率が向上
- ・新規設備により、西洋薬への進出



安定的に黒字が出せる体制になった

AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd.

14

本草製薬です。

当社グループに入りまして、長いこと年間で赤字をずっと出した会社でございまして、昨年度より完全黒字化することができました。それがなぜできたかといいますと、ジェネリック医薬品が非常に好調だったと。

#### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS  
Asia's Meetings, Globally

自社製造品のピムロ顆粒、これはバリウム検査を受けた後の下剤でございます。非常に体に優しい下剤でございます、こちらの売上が好調であったと。あと仕入れ商品になりますけれども、シルデナフィル、フィナステリド、生活改善薬だったり、AGA、これは毛髪に関するお悩みの患者様向けのお薬ですが、こういうものが売上をけん引したということでございます。

あと漢方薬も自社の OEM、これは以前は本草は一切やっていなかったのですが、本社の本業が OEM ということもありまして、本草も OEM にチャレンジしていこうということで、設備投資等を行って、自社製造、自社の認証を使って、大手のお客様の漢方薬なんかも OEM で請けることを増やしたことで、安定的に黒字が出せる体制になりました。

## さいか屋 百貨店業 さいか屋 〔証券コード：8254〕

2021年5月26日 連結子会社化 <のれん914百万円>

- ・創業明治5年、神奈川県地盤の百貨店（創業150年）
- ・藤沢店、横須賀店、川崎店(サテライト)の3店舗を展開



藤沢店

### 早期の黒字化に向けて、収益改善の施策 5 項目

#### ①借入金の支払利息を削減

当初、さいか屋の銀行借入金 67億円

AMSが80億円を融資し、銀行借入金を全額返済  
(融資実行：2021年6月30日)



支払利息 年間 約1億1,000万円の削減



横須賀店

娯楽の殿堂  
さいか屋 e STAGE



AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd.

15

続きまして、百貨店、これはさいか屋です。

藤沢と横須賀に2店舗、あとサテライト店として川崎店の1店舗、計3店舗を展開しております。

#### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

**SCRIPTS**  
Asia's Meetings, Globally

創業から 150 周年、今年がちょうど 150 年の年でありまして、そちらの百貨店事業も昨年度より当社グループに入っておりますが、本日は社長の山野井がお邪魔しておりますので、山野井から今後の百貨店の展開について、ご説明をさせていただきたいと思います。

**山野井：**こんにちは。さいか屋の山野井でございます。よろしくお願いいたします。

今、浅山雄彦会長からご説明があったように、さいか屋は創業明治 5 年、神奈川県横須賀で創業されました。11 月 20 日でちょうど 150 年を迎えて、今、藤沢、横須賀、川崎のサテライトで創業 150 周年ということでいろいろなイベント、企画をやっています。

一つは創業 150 年目の 12 日に横須賀のプリンスホテルで、山本譲二さんのディナーショーをはじめ 500 人のお客様に来ていただいて、非常に創業前の企画、ディナーショーだったんですけども、外商のお客様とかいろんな方に来ていただいて、華やかに 150 年を今迎えているところでございます。

先ほどからご紹介されているように、藤沢店、横須賀店、それから川崎店、これは日航ホテルの中に入っているサテライト、この 3 店舗で今さいか屋は運営をしております。

前期、当然親会社の AFC-HD アムスライフサイエンスが 8 月から 9 月で、さいか屋は 3 月から 2 月で決算がございましたけれども、今期は 3 月から 8 月、半年間で決算を終えまして、今期からは 8 月から 9 月、親会社に合わせたかたちの決算に変更いたしました。

半年間の数字ですけれども、65 億の売上に対して 70 億円で 107% のアップをしております。しかし、なかなか赤字から脱せない中、最終経常利益で約 3 億 2,000 万円の赤字、営業利益では前年は 3 億 2,000 万円の赤字、今期は経常利益で 5,400 万円と、約 2 億円弱のマイナスの改善はできたのですけれども、まだまだ赤字が続いております、今期しっかりやっ払いこうと動きました。

早期黒字化に向けて収益改善の施策、5 項目ということで、ご報告、ご説明をさせていただければと思います。

まず、先ほどもお話しさせていただいたように、5 月の 26 日に第三者割当を AFC にしていただいて、グループ内に入りました。そこで金融機関から 67 億円の借入があったものを、親会社で 80 億円を融資していただいて、銀行の借入金額を全額返却しまして、約 1 億 1,000 万円の金利を圧縮いたしました。

---

## サポート

|         |               |         |                          |
|---------|---------------|---------|--------------------------|
| 日本      | 050-5212-7790 | 米国      | 1-800-674-8375           |
| フリーダイヤル | 0120-966-744  | メールアドレス | support@scriptsasias.com |



## ②商品券の保証料を削減

商品券の発行保証金について、当初、銀行及び保証機関と発行保証金保全契約を締結  
AFCが6億2,500万円を融資し、現金供託に変更  
(融資実行：2022年2月25日)



支払保証料 年間 約 820万円の削減

|          |          |
|----------|----------|
| AFC融資    | 6億2500万円 |
| 百貨店協会戻り金 | 2億 800万円 |
| さいか屋     | 3100万円   |
| 計        | 8億6400万円 |

## ③役員の人件費を削減

役員数 3名減等、役員人件費を削減

役員の人件費 年間 約 2,290万円の削減 予定

## ④支払家賃を削減

家賃軽減について、地権者と交渉を継続中

## ⑤歩率2%改善

取引先に、窮状を説明し、  
全体の歩率2%改善のご協力をお願いする

年間 約 3億円の削減 予定

さいか屋は、今もお話ししたように、創業150年の百貨店でございまして、当然皆様もお使いいただいていると思うのですが、百貨店には商品券という金券がございまして。この部分も当然赤字だったりすると、指定の3割のほかに逆にもう3割保証しなきゃいけないということで、金融機関から保証をいただいて金利を払っていたものを、グループで融資していただいて、支払保証金の金利を年間820万円ほど減額しております。

3番目に関しては、当然さいか屋はこういう状況でしたので、金融機関とかは結構出向者がいたのですが、その役員を3名帰っていただいて、約2,290万円のコストを削減させていただきました。

当然、百貨店なので、面積も広く、さいか屋は、先ほどお話ししたように、大きな店舗は横須賀、藤沢2店舗あるのですが、全部自分たちの資産であると。借り入れているところが、藤沢店に関しては約30%、横須賀店に関しては15%地権者さんがいて、家賃を払っていました。この辺に関してもコロナのことも含めて家賃交渉をしながら、今かなりの金額を減額して、今も藤沢も交渉している最中でございます。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



当然、百貨店ですので、お取引先が店舗、藤沢店、横須賀店、川崎店でテナントとしてやっていただいています。消化取引契約ということで契約しているのですが、水道光熱費、それからいろんな状況で環境がかなり変わっていますので、今、お取引先全社に仕入れの金額の2%の改善を各取引先をお願いしまして、約半分ぐらいのお取引先様に関しては条件をおのみいただいて、利益をアップさせていただいております。

先ほどもお話ししたように、年間約前期3億円ぐらいの赤字をつくっておりますので、この部分で年間3億円の減額を、この辺の今お話しした5段階で改善していきたいと思っております。

それで、先ほどお話ししたように、期が変わりますので、2022年の9月から2023年8月、親会社に合わせて、予算組みに関しては先ほどご説明した旧会計基準ではなく、新会計基準で、年間50億円の売上で、営業利益に関しては6,500万円の黒、経常利益に関しては3,600万円の黒字で来年8月を目指して、コストのカットと売上のアップを図って黒字化を目指して、親会社に貢献ができるようにしっかり頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

さいか屋からは以上でございます。

**浅山：**さいか屋は、少し山野井の話を補足しますと、約10年前にADRになりまして、当時横浜銀行様を中心に、都銀さんも含めて応援していただいた中で、主導権が、直接銀行様が経営をしないといっても、決裁等がやはり大規模なお借入をしていることもあって、健全な百貨店の経営が、当時の経営陣ができていなかったという状況が10年近く続いていた中でご縁がありまして、当社創業者の浅山忠彦が、さいか屋のテナントとしてAFCがお世話になっておりました。

現状中を拝見させていただいたところ、まだまだ150年の歴史のさいか屋がこのままでは終わらないというか、まだまだいけるところが改善の余地がたくさんあるということで、当社グループとしてこちらのさいか屋をグループ化させていただいた経緯がございます。

特に冒頭の1番の借入金ですけれども、当時横浜銀行様、ほかにも約2%の金利だったので、こちらを当社のグループの信用も含めて約0.3%の金利に抑えることによって、この1億1,000万円を捻出しているということでございます。

AFCグループとさいか屋のコラボレーションによって、使えるものを使えると。信用力、また資材等も全部グループとして総力を挙げることによって、今期さいか屋は決算も変え、本当に当社のグループとなって1年間戦って、黒字で終わることを最大の目標にさせていただいております。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com





2022年8月期 3,800万円の経常黒字

飲食を中心に、コロナ収束に向けた戦略と収束後の戦略

### ■ 先行投資（見直しと改善、新規店舗および新規事業）

#### ① 前期オープン3店舗の見直しと改善

焼肉店「すだく」、回転寿司「沼津港一富士丸」、ベーカリーカフェ「ギャレイ」  
 (10月4日オープン) (10月26日オープン) (11月10日オープン)



#### ② 新規店舗（静岡駅南口に新たな旗艦店） 2023年7月～9月予定

#### ③ 新規事業（海外店舗、輸出事業）

前期までの守りと状況把握に翻弄された流れから、反転  
 既存店の回復、新業態の挑戦を新たな収益源への進化へ。  
 さらに、時代にマッチした店舗、新事業への挑戦。

続きまして、なすびでございます。

こちらは飲食店の会社でございます。昨年度終わった期は 3,800 万円の経常黒字ですけれども、こちらは約 3 億円の行政からの補助金をいただいております、なんとか黒字の体面を保つことができたということでございます。これがなければ、こちらでも約 3 億円の赤字を出したかもしれないような状況に陥っております。

ただし、昨今、少しコロナも落ち着き始めて、直近の忘年会等の予約も入り始めているようなこともございます。また、コロナをきっかけとして見直しを行っておりまして、スクラップアンドビルドじゃないですけれども、慢性的な赤字店舗については閉めて、新たな新規店舗を開発していくような行いを前期からやっております。

沼津港の一等地に一富士丸という回転寿司を始めたり、焼き肉店を始めたりパン屋を始めたり、こういった新たな試みをすることによって、なすびも年間黒字を今期は必ず達成するということで、今、グループ内で一喜一憂しながら毎日頑張っております。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

## ■ソーラーパネルを設置し、CO2排出削減

2022年7月22日

第二工場屋上に、太陽光発電設備を設置

- ・年間 約35tのCO2排出削減
- ・年間 約74,000Kwhの発電量 = 年間 約130万円の電気代削減



第二工場屋上 (静岡市駿河区)

## ■SMETA監査適合評価

2022年1月19日

SMETA監査において、当社管理の適正性が認められました。

- ・ SMETA監査は、世界で最も広く使われている社会監査基準の一つで、労務・労働安全衛生・環境・ビジネス倫理の監査が第三者機関により行われます。
- ・ 認証により、Amazonサイトにおいて「限定ブランド」が付く等、信用力や露出度UPにつながります



ESG、環境、社会、企業統治です。

最近 SDGs も含めまして、いろいろ社会的責任、当社も上場させていただいている以上、そういうことにも力を入れていこうということで、これは静岡銀行様のご紹介もありまして、ソーラーパネルも設置して、少しでも CO2 を排出削減していこうという試みをさせていただいております。

あと、これが僕も最近勉強させてもらいまして、SMETA、社内ではスメタと呼んでいるのですが、主にも海外のお客様はこちらの監査、適合評価を非常に重要視しているケースが、当社 OEM のお客様に Amazon とお取引をされている会社様からの、こういう評価を製造会社であるアムスも監査を受けてくれないかというところから始まりまして、今年の 1 月 19 日に監査を受けまして、当社の管理の適正性が認められております。

これを監査を受けることによって、例えばコストコさんとかに導入されている企業様のご商品なんかも、こういう認証を受けていると非常に販売力が付くことが実証されていますので、こういう取り組みも積極的に行っていきたいと思っております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

## 2023年8月期 連結予想

(単位：百万円)

| 連結                      | 2021年8月期 | 2022年8月期 | 2023年8月期<br>通期予想 | 対前期<br>増減率 |
|-------------------------|----------|----------|------------------|------------|
| 売上高                     | 22,368   | 22,997   | 24,741           | 107.6%     |
| 営業利益                    | 2,245    | 1,011    | 1,481            | 146.5%     |
| 経常利益                    | 2,161    | 1,343    | 1,435            | 106.9%     |
| 親会社株主に<br>帰属する当期<br>純利益 | 1,495    | 735      | 800              | 108.8%     |

AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd.

20

そんな中、今期に関しましては、業績につきまして、連結で申しますと、売上高 247 億円、営業利益 14 億円、経常利益同じく 14 億円、親会社株主に帰属する当期純利益としては 8 億円です。

売上から利益まで全て前年を上回る予算を立てさせていただいて、これは海外が回復していくことと、さいか屋の赤字が減ること、なすびの赤字が減ることによって可能でございます。

また、海外の伸びが期の途中で大幅に元に戻ってくれば、これ以上の売上、利益を達成することができるかと思います。そちらの準備に余念なく、グループを挙げて取り組んでいきたいと思えます。

皆様におかれましては、今後ともよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

司会：ありがとうございました。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

## 質疑応答

---

**司会 [M]**：それでは、質疑応答に入らせていただきます。

ご質問される方は挙手をお願いいたします。

なお、この IR ミーティングは、質疑応答部分も含め全文を書き起こして公開する予定です。したがって、質問される際、会社名、氏名を名乗っていただいた場合はそのまま公開されます。もし匿名を希望される場合は、氏名を省略していただいても結構です。

それでは、どうぞ。

せっかくの機会でございますので、ご質問がございましたら、どなたかどうぞ。

よろしいでしょうか。特にないようでございますけれども、会社からもし何か追加事項がございましたらいかがですか。

**浅山 [M]**：特にございませんが、グループ会社が増えている理由は、ロシアとかウクライナの戦争も含めて、世界的に情勢が非常に変化、コロナも含めてしていく中で、一つの事業に掘り下げていくことも大事ですけれども、いろんな景気が非常に鈍化していく中で、特に飲食業は悪い中で逆に聞くところによるとチャンス。例えばタイとかアジアでは日本食が非常に人気があるということで、現地の優良な企業から引き合いも来ています。

こんな中に上場企業である利点、株主様からの応援だったり、金融関係の皆様からのご支援を得て、グループもこの踊り場からより大きな信用を得た会社になっていく一つのステップと捉えて、今期、来期、ここ 5 年、10 年を飛躍の 5 年、10 年にしたいと思っておりますので、また皆様、いろいろご支援、ご指導を賜れば幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

**司会 [M]**：ありがとうございました。

以上をもちまして、本日の説明会を終了いたします。どうもありがとうございました。

[了]

---

### 脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



## 免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

---

## サポート

|         |               |         |                          |
|---------|---------------|---------|--------------------------|
| 日本      | 050-5212-7790 | 米国      | 1-800-674-8375           |
| フリーダイヤル | 0120-966-744  | メールアドレス | support@scriptsasias.com |

